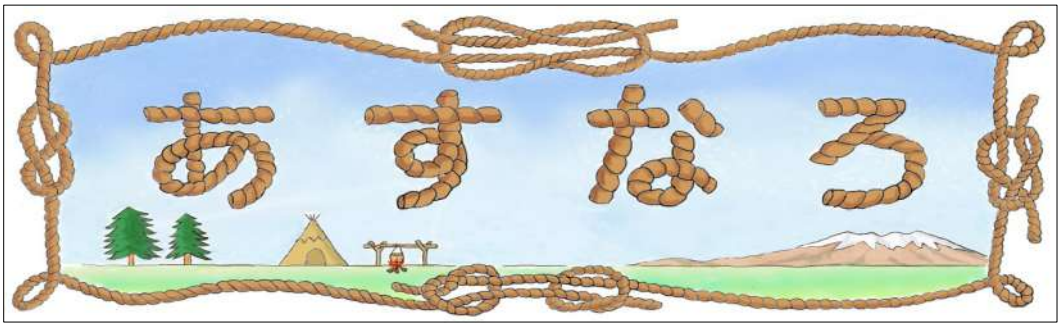

ボーイスカウト東京連盟
あすなろ地区 広報誌
第 １９号

2018年（平成30年）
4月 16日
組織拡充委員会

菊スカウト章の伝達

2月22日（木）、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会の前に、杉並３団の桑原博暉さんに菊スカウト章の伝達が行なわれました。

菊スカウト章の伝達・富士スカウト記念品授与

3月22日（木）、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会の前に、杉並６団の井上凛香さんと、杉並８団の花輪 陽さんに菊スカウト章の伝達が行なわれました。

また、富士スカウト章受章者として、三田史彬さん（杉並11団）、田中雄大さん（杉並11団）、平岡拓実さん（杉並12団）、向埜航太さん（杉並12団）に、佐藤地区委員長より日本連盟からの記念品が手渡されました。

富士スカウト章受章者顕彰のつどい

3月11日(日)、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、平成29年度中に富士スカウト章を受章したスカウトのプロジェクト発表会、記念品贈呈、顕彰のつどいが開催され、あすなろ地区からは杉並12団の平岡拓実さん、中野11団の東條雅臣さんが出席しました。

プロジェクト発表会で、平岡さんは富士山を清掃しがら登山するプロジェクトについて、内容を記したパネルを前に、苦労した点、成果などについて発表しました。東條さんは学校の部活動での取り組みをプロジェクトとし、「マーメイドボーイズ」という名前で行った活動を発表しました。振付を自分達で考え、音楽も自身で作曲し、仲間と毎日プールで練習した結果、学園祭の公演の投票で一位を獲得した成果を披露しました。また会場には富士スカウト章に挑戦するスカウトも来場してメモに記したり、プロジェクトのレポートを閲覧していました。

プロジェクト発表後、各スカウトには東京スカウトクラブの山口英一会長より、記念品として名前入りのナイフが一人ひとりに渡され、顕彰のつどいでは、村山大介県連コミッショナーの激励の言葉に対して、受章者を代表して、中野11団の東條雅臣さんが答辞を述べました。

平岡拓実さんの発表↑

東條雅臣さんの発表↑

プロジェクトの発表↑

プロジェクトの発表

発表のパネル↓

プロジェクト資料の閲覧↓

記念品の贈呈↑

全員で記念撮影↑

あすなろ地区関係者↑

あすなろ地区受章者の紹介↓

色紙に記入いただきました↓

東條さんの答辞↓

富士スカウト 首相官邸、文部科学省を表敬訪問

平成29年度は全国で165人が富士スカウト章を受章しました。

3月27日(火)、富士スカウト章を受章した各県連盟の代表47人の一員として、杉並12団の平岡拓実さんは首相官邸と文部科学省を表敬訪問しました。

首相官邸での表敬訪問では、日本連盟の膳師功コミッショナーの挨拶のあと、安部内閣総理大臣から挨拶があり、代表スカウトの決意の言葉、弥栄三唱がありました。

平岡拓実さんは女性の代表スカウトとともに、表敬の式の司会進行役を担当しました。

また、文部科学省では林文部科学大臣から激励の言葉をいただきました。

富士スカウト 東宮御所を表敬訪問

4月5日(木)、富士スカウト章を受章した31県連盟より、47人の代表スカウトが東宮御所を表敬訪問し、中野11団の東條雅臣さんはそのメンバーとして参加しました。

東條さんからは表敬訪問の様子について、以下のコメントをいただきました。

「前日の14時に水道橋のスカウト会館に集合して、派遣の主旨を全体で確認したあと、班ごとに分かれて各々のプロジェクトを発表しながら、コミュニケーションを図り、全体練習の時間が合計4時間ほど設けられました。そのままスカウト会館内で男子、女子、スタッフで階が分かれて、寝泊まりしました。

当日は東宮御所に訪問して、玄関前で記念写真を撮影し、直前に侍従さんの指導の下により練習しました。

皇太子殿下とは一人一人お話しする時間があり、その間、お菓子やジュースが配られるので、自由に貰ったり断ったりできます。

私は中高大で学習院で、「マーメイドボーイズ」のプロジェクトは高校の文化祭での催し物だったので、その話を致しましたところ、皇太子殿下も私のプロジェクト内容を存じ上げてくださったので、大いに盛り上がりました。「また会いましょう」とのお言葉を頂いたので嬉しかったです。

皇太子殿下が各スカウトとお話しになられたあと、代表スカウトがお礼の言葉を述べ、スカウトから弥栄をお贈りしました。

解散式は東宮御所内で行い、翌日は混雑を避けるため、東京駅前でバスから降りて流れ解散です。

東宮御所の表敬訪問は一生に一度あるかないか、選ばれた者だけが参加できる特別なイベントです。

今後も、あすなろ地区から再び東宮御所に行って、皇太子殿下とお会いし、親しくお話しすることのできるスカウトが数多く出るのを楽しみにしています。」

歌とゲームの教室　善福寺川緑地で開催

3月4日(日)、「楽しい歌とゲームの教室」が善福寺川緑地杉並第二小学校前広場で開催され、暖かな陽射しのもと、地区のビーバー隊のスカウト、リーダー、保護者の方々が集まりました。

今回のテーマは「力を合せて金メダル！～あすリンピック！！～」で、一般参加で集ってくれた子どもたちは、同年代のビーバーと一緒に大きな輪を作り、パンダやカンガルーなど、動物の名前の５つのチームを編成して、オリンピック競技にちなんだゲームを楽しみました。

各チームはコーナーごとに歌を歌ったあと、ボール渡し、砲丸投げ、国旗合せなどのゲームをチームの仲間と協力しながら楽しみました。

会場の受付

下地地区コミッショナーの挨拶

全員で記念撮影

広場一杯に広がった大きな輪

決められた人数でグループ作り

ボール渡しゲーム

各ゲームの前にはみんなで歌

紙のボールの砲丸投げ

担架運び

目隠ししてスケート団体追抜きのパシュート

オリンピック参加国の国旗合せ

東京マラソン　市ヶ谷と高輪で奉仕

2月25日（日）、東京マラソンが開催され、約12倍の抽選に当選した約3万6千人のランナーが新宿都庁前をスタートし、銀座、浅草などを経由してゴールの東京駅前をめざしました。男子では16年ぶりの日本記録も出ました。

あすなろ地区では10名のスカウト、指導者が2か所に分かれ、ボランティアとして大会運営の奉仕をしました。

活動場所となった市ヶ谷の法政大学新見附校舎前では、今大会より社会貢献活動として設置された「洋服ポスト」の支援を行いました。これまで、ランナーが防寒のためスタート時に着ていた衣類は、途中のコース上に脱ぎ捨てられ、ゴミとして処分されていました。

しかし「洋服ポスト」に入れれば、量に応じてマラソンの運営資金として寄付され、衣類は海外のマーケットで販売され、リサイクル販売されます。ランナーには「洋服ポスト」の趣旨が事前に知らされていたため、大きな袋の口を空けて持っていると、着ていた衣類を提供するランナーも多く、すぐに袋が満杯になりました。

また、高輪のコース折返し付近の活動場所ではコース整理員として沿道に立ち、ランナーの安全確保、観衆の飛び出し防止を行ったほか、36ｋｍ地点の距離表示看板を掲げました。

事前の打ち合わせ

車椅子のランナー

大勢のランナー

←市ヶ谷の洋服ポスト

←市ヶ谷ブロックのメンバー

←高輪ブロックのメンバー→

あすなろ地区ローバー　ハワイ派遣　特集

3月12日より19日まで、あすなろ地区では本間幹人さん(杉並3団)を団長とし、地区のローバースカウト10名で構成される派遣団をハワイのオアフ島に派遣しました。

ローバー達は前年5月より事前集会を重ねて派遣計画を作り上げ、準備を進めました。現地ではハワイの歴史やボーイスカウトについて知る活動、そして日本が攻撃した国についての平和学習を行いました。

ハワイのボーイスカウトとの交流では、現地のボーイスカウトについて知ることができたほか、日本のボーイスカウトについても知ってもらい、スカウト活動における視野を広げることができました。

また、ハワイの食、環境、歴史、文化など、異文化を実際に体験して見聞を深めてきました。

詳細については「ハワイ派遣報告書」にまとめられていますが、派遣中のプログラムと、参加ローバーの感想文の一部をお届けします。

派遣中のプログラム

派遣メンバーによる分担執筆

3月12日

日本時間16時、羽田空港の国際線ターミナルに集合した。派遣の計画段階から顔を合わせる機会は何度かあったが、10人全員が顔を合わせたのは、この日が初めてだった。

搭乗手続きを済ませて搭乗したものの、乗り継ぎ先の北京空港の混雑で出発が1時間ほど遅れ、離陸前に機内食をとり、20時40分頃に出発して、中国時間の23時30分に北京空港に到着した。そのまま乗り継ぎの手続きをし、軽食をとって長時間のフライトに備えた。中国からホノルルへの便は、予定通り中国時間の25時30分に出発し、ホノルル国際空港にはハワイ時間16時30分に到着した。時差の関係で私たちは2度目の12日をハワイでスタートすることとなる。

入国手続きの際は、「あなたはボーイスカウト？イーグルスカウトなの？」と質問も受け、ハワイでのボーイスカウトの認知度の高さを感じるとともに、これから始まるハワイでの生活に心が弾んだ。

空港到着後、先に到着していたリーダーや現地の方と合流し、レストランでお互いの自己紹介をして交流を深めた。

19時頃、スーパーで滞在中に必要な食材を買った。スーパーには日本にない商品がたくさんあり、ハワイの食文化に触れることができる楽しい買い出しになった。

買い出し後は、派遣の期間中、家に泊めてくださったバーノンの家に移動し、翌日からのプログラムの準備をして、就寝した。

3月13日

13日のテーマは平和学習。アリゾナ記念館で太平洋戦争と真珠湾攻撃について学んだ。アリゾナ記念館では戦争の歴史を学んだ。中にはひしゃげた戦艦の装甲や、日本が開発をした人間魚雷が展示されており、戦火の一端を見ることができた。戦争から70年が経ち、日本人である自分がこの場にいることが不思議に感じられた。

アリゾナ記念館で展示物を眺めた後、戦艦ミズーリに移動をした。ミズーリが世界で最後に作られ、終戦調印式が行われた戦艦ということを学んだ。日本語ツアーに参加し、甲板上で説明を受けた後、各自で甲板内を見学した。

基地内のサンドウィッチ店の昼食は、アメリカサイズの大きさで、私は一人で食べきれず、二人で分けた。

その後、太平洋航空博物館に移動し、飛行機を見学した。中には日本のゼロ戦やソ連の戦闘機など、各国と時代の飛行機が揃っていた。飛行機を修理する技術がそろっていることなどから、ハワイに軍事的な施設がそろっていること、また軍事技術の革新を改めて感じた。

太平洋航空博物館を見学したあと、ワイケレプレミアムアウトレットへ買い物に行った。このアウトレットはバーノンさんお勧めの場所で、現地の人が買いに来るタイプのアウトレットだった。のちに訪れるアラモアナショッピングセンターとはギャップがあった。お土産の買い物とは違い、現地の人の買い物を体験できた。

3月14日

3日目、バーノンさんの勧めで、アロハスタジアムで開かれているフリーマーケットに行った。そこにはハワイ独特の工芸品や食品、生活用品などが売られていた。木彫りの彫刻が多く、亀やハワイの神様を表したものなど、さまざまにあった。ハワイの定番ともいえるココナッツジュースや、グァバの味のキャラメルなども売られており、活気に満ちていた。そこでは各々がハワイ文化に触れつつ、買い物を楽しんだ。

買い物を楽しんだ後、少し早くはあるがアロハ本部に向かい、スカウトショップでアメリカやハワイのスカウトたちが身につけているワッペンなどを確認した。最初は場所と雰囲気を確認するためで、下見が主目的であった。

昼食はバーノンさんお勧めの日本食が食べられるお店に行った。最初は皆どのような日本食が出てくるのか疑念もあったが、日本人の味覚に合った日本食が多く、皆満足することができた。

最後に立ち寄ったビショップミュージアムは、日本の国立博物館や科学技術館のような施設で、学生の頃の社会科見学のように、ハワイの王族の歴史や文化、芸術の展示物を見学できた。

3月15日

この日のメインプログラムはハナウマベイで、距離があることや、朝の通勤ラッシュを想定し、午前5時30分にバーノンさん宅を出発し、1時間半ほどでハナウマベイに到着した。展望台までの道には、にわとり、リスを見かけ、日本のビーチや自然公園を思い浮かべていたので、新鮮な感覚であった。展望台からハナウマベイのビーチが一望でき、あまりの綺麗さに、現実なのかと目を疑うほどであった。

展望台での朝食後、ビーチのエントランスへ向かった。ハナウマベイは自然保護区に指定されているため、ビーチへ向かう前に、自然環境を保全していくために守るべきルールと、危険なところへの立ち入りを注意喚起する10分ほどのビデオを観た。朝早くにもかかわらず、多くの人がおり、音声ガイドも日本語、韓国語などがあり、多くの観光客が訪れていることがうかがえた。

ビーチに着くと、多くの人が既にシュノーケリングを楽しんでおり、ボンベを背負い、ウェットスーツを着ている人たちもいた。私たちもフィンとシュノーケルを持参し、海へ入った。海は透き通っていて多くの魚がおり、自然と生き物にあふれていた。

午前10時ごろまで滞在した後、アロハ連盟に表敬訪問のため向かった。連盟に到着し、本館に併設されている会議室へ通していただき、アロハ連盟のCEOであるジェフさん、COOのエリックさんとのお話の時間を設けていただいた。ジェフさんが日本語を１つ教えて欲しいとのことだったので、ボーイスカウトで祝福の際に行う、「弥栄」を実演した。短時間ではあったが心に残る時間となり、激励もいただき、今後のスカウト活動の活力となった。

アラモアナショッピングセンターのフードコートでの昼食のあと、ダイヤモンドヘッド向かった。時間の都合上、ハイキングは出来なかったため、エントランスのところから撮影のみだった。

夜ご飯の買い物をして、再びアラモアナショッピングセンターに戻り、お土産を買う時間に充て、帰宅した。

3月16日

観光スポットであるヌウアヌ・パリ展望台に行った。山の中腹から見る景色は、ハワイの豊かな緑が眼前に広がり、遠くには街や海も見え、まさにハワイの全てを見下ろせる絶景だった。この絶壁で、日本でいう江戸時代の頃に当時のカメハメハ大王が敵を追い詰めた地で、「ハワイの徳川家康だ…」と説明するバーノンさんの知識には恐れ入った。

次に我々が向かったカイルアビーチは、昨日訪れた海よりも素足に優しく、大きな波のビーチに魅了された私は、水着はもちろん、替えの服もなかったが、気がついたらジーパンのまま全身が海に浸かっていた。

ランチはハワイ感満載のハンバーガーをそれぞれ頬張ったが、ここにきて初めての、会計時にチップを当然のように求められるお店で、ハワイ感を楽しんでいたお陰で、戸惑いながらチップを払った。

食後、エウカイビーチに向かい、今度はほとんどのメンバーが服のまま海に入った。昼下がりで気温も高かったお陰で、とても気持ちが良かった。

夜はTroop49と交流した。相手は皆ボーイ年代で、少し距離感が掴みづらかったものの、ハンバーグと目玉焼きのロコモコ丼を楽しく一緒に作った。時間の都合もあり、食べるのはTroop49とは別だったが、最後に記念撮影をした。

帰宅は22時30分になり、全員が疲労により移動中の車は爆睡だった。

3月17日ー3月19日

17日は千葉県連のローバースカウト達と共に現地のTroop75のスカウトたちと交流した。午前中はハイキングを行い、その後、移動して公園で昼食を食べた。

昼食後はバーノン宅で帰国の準備や後片付けをして、名和舞雅さんが描いたメンバー全員のイラスト入りの色紙をバーノンさんに贈った。バーノンさんには空港まで送って頂き、最後のお別れをした。

空港に到着後、搭乗手続きの列に並んでいる際には、多くの人が制服姿の私たちをみてボーイスカウトと認識しており、ボーイスカウトの認知度の高さを感じた。

ホノルル時間の22時に出発してからは、多くのメンバーは疲労が蓄積していたのか、すぐに寝ていて、中国時間の19日早朝の5時20分に北京空港に到着し、往路と同様に乗り継ぎの手続きをして、8時35分に北京を出発した。

羽田空港には日本時間の19日12時50分に到着した。先に日本に帰っていた小山君も迎えに来てくれていた。

疲れは全員まだ残っているようだったが、無事に日本に戻ってこられたこと、派遣期間中のプログラムの充実もあってか、全員の顔から達成感と充実感に満ちた表情をみてとることができた。

派遣メンバー皆さんの感想文

代表 中野8団RS　沼上 志帆

私は今までにいくつかの日本連盟の派遣に参加してきましたが、今回のように最初から自分達でつくる海外派遣は初めてでした。ハワイに行けるという話を聞いて、ハワイに行きたいという思いだけで、あすなろ地区ローバーとしてのハワイ派遣に行こうと決めて、派遣の準備をはじめました。「ハワイに行かない？」という言葉だけで10名の地区ローバーのメンバーを集め、スケジュールの決定、航空券の予約、ハワイのバーノンさんとの連絡など、事前準備をすべて自分たちで行いました。

事前準備、会議に、あまりみんなが集まらず大丈夫かな…と最初は不安でしたが、みんなにそれぞれの役割を託して日がたつにつれて、派遣に向けた全員の意識が高まっていきました。派遣中に困ったことが起きても、全員の協力と相談により乗り切ることができ、それぞれの能力が十分に発揮できたと思います。

ハワイでは多くの方々にお世話になり、ハワイと日本のつながりをすごく感じることができました。Troop49とTroop75の日本語を話せるスカウトの多さから、特にそう感じました。これまでは学校で日本からの視点で戦争のことを学んでいたのが、ハワイに行ったおかげで、パールハーバーでは、ハワイからの視点で学ぶことができ、新たな知識を得ることができました。

ハワイの文化、自然、綺麗な海を存分に感じることができ、日本人だけの旅行なら行かないような場所にも連れて行ってもらいました。ハワイ在住の方と過ごさなければできなかったであろう日々を過ごすことができ、とても楽しかったです。バーノンさんは常に私たちのことを気にしてくださり、行きたいところなどを伝えると、より良い案やいろいろなことを教えてくださいました。日本語と英語が混ざったバーノンさんとの会話は、意思疎通が難しかっですが、運転しながら外の建物のことやいろいろなことを教えていただき、贅沢なガイドツアーをしてもらうことができました。

行く前と比べ、帰国後は派遣員全員の仲が深まり、地区ローバーの活動として今回の派遣は大きな成果があったと思います。地区ローバーの活動史上10名という最大の人数で活動ができ、自分が地区ローバーの代表としての年にこのようなハワイ派遣を無事終えることができたことをうれしく思います。これを機に今回の派遣メンバーと共に地区ローバーのメンバーを活動に巻き込み、今後もあすなろ地区ローバーの活動をさらに盛り上げていきたいと思います。

今まで経験してきた海外派遣と比べ物にならないくらい、多くの素晴らしい経験ができたと思っています。

多くのスカウトに海外派遣、海外のスカウトとの交流の楽しさを知ってもらいたいので、地区ローバーの派遣、日本連盟の派遣を地区ローバーのスカウトに伝えていこうと思います。

杉並12団RS　　高木 嘉人

私はボーイスカウトにおいて今回初めて、海外派遣に参加をした。そのなかで印象に特に残っている5点について述べていきたい。今回の派遣はあらかじめ内容が決まっていたものでなく、自分たちで一から決めていくものであったため、プログラム作成の大変さをまず感じた。何のためにハワイに行くのか、なにを学ぶためにどこへ行くのかを決めることによって、派遣における軸ができ、そこから考えを広げていくことが出来た。

次に各自の役割を全うすることの重要性である。10名の参加者にはそれぞれ役割が課された。

代表を筆頭に会計や記録など各人が役割を果たさなければ、派遣が成り立たないものばかりである。

そのような中で各人が役割を全うし、困っている人がいれば誰かがフォローする対応ができたことが、今回の派遣

を無事に終えられた要因である。

3つ目は派遣期間中の想定外の事への対応で、今回の派遣中、予定を変更することが生じた。大きな事態にはならなかったが、その際にバタついてしまうことがあり、メンバー内でも意思疎通が図りきれないことがあった。それは事前計画の段階で、そのような事態への想定が甘かったことが原因である。登山の際に避難路等を考えるように、海外派遣においては、想定外の何パターンもの事態の対応をする必要がある。それにより、もしもの事態への解決策が迅速に導かれ、本来の状態へとすぐに戻すことが出来るからである。

4つ目は自身の英語能力について、スピーキングもヒヤリングも、より高めていく必要があると感じた。日常生活での簡単なコミュニケーションは出来ても、自分の意見を伝える状況になった場合に、ほとんど話せず、会話の機会を逃してしまうことがあった。しかし相手も気を使ってくれて、英語が話せるか聞かれたことも多くあった。そのため英語を話す・聞くスキルの向上を図るだけでなく、積極的にコミュニケーションをとって経験を積むことで、スキルの向上を心掛けていきたい。

5つ目は平和学習において感じた、太平洋戦争の歴史である。中学・高校で学んだ日本の視点での太平洋戦争、そして今回はハワイの視点での太平洋戦争を知った。そのことで戦艦ミズーリ号では私たちがその場にいるということが奇跡であるのだと感じることが出来た。アリゾナ記念館の展示においては、以前と比べ日本を敵視したような展示が無くなってきているとのことで、日米の戦った歴史を客観的に知ることが出来ただけでなく、もう二度と戦争を起こしてはならないことを改めて認識することができ、有意義な経験であった。

杉並9団RS　　望月 海

今回の派遣の活動目的の一つに平和学習を盛り込んでおり、2日目に早速アリゾナ記念館を見学した。真珠湾で学ぶ真珠湾攻撃は日本で学ぶそれとは違うと感じた。攻撃の被害を受けた土地である。展示物で「あれほど離れた日本軍がなぜハワイにいるのか」という当時のハワイ市民のコメントがあった。日本の当時の情勢を鑑みても、ハワイ市民からすれば戦争は関係のないことである。真珠湾攻撃は広島や長崎の原爆被爆の問題と根本的には何も変わらないのだと感じた。

また、太平洋戦争中の日系人の境遇についても調べ学んだ。そして1960年代まで、日系人への差別的風潮は残っていたことを知った。バーノンさんの境遇は聞けなかったが、小学生ぐらいまで、嫌な思いをしてきたかもしれない。

私の英語力の不足で、バーノンさんに聞けなかったことが悔やまれる。大日本帝国政府とアメリカ政府の方針により、多くの人が日常生活を失ったことを実感できた。私たち日本人と一緒に日系人のバーノンさんがパールハーバーを歩いていることが1940年代では考えられない光景であり、いまそれができているありがたみを体験した。

最近「スカウティングとは何だろう」と考える。ボーイスカウトの教育の特色として野外活動が挙げられる。私の所属している団は野外活動が活発で、私のボーイスカウト生活では野外活動の技術を追求してきた。

しかし最近、ボーイスカウトとは技術では測りきれない価値に基づいて行われていると感じる。私事ではあるが、初日から早速飛行場で荷物を紛失し、その対応に追われた。航空会社と行き違いがあり、その交渉をバーノンさんにしてもらったのだが、毅然と、機敏に対応をしてくださった。そしてバーノンさんはその直後には冗談を言うのである。「スカウトは快活である」まさにそのお手本である。野営の技術は全く関係ないが、どんな時でも「ダイジョウブ」とおっしゃるバーノンさんこそ、「ミスター・ボーイスカウト」と感じた。

またTroop75のＴシャツには「ON MY HONOR I WILL DO MY BEST…」と書かれている。小学生の時に呪文のように唱えた誓いをこうして読み直すと感慨深い。世界中でスカウティングが展開されている、肌身でその意味を体験できた。

今までは海外に行く時は誰かの企画に乗っていたが、今回のハワイ派遣はローバーを中心に企画運営し、海外に行くにあたり、どのような準備が必要か一から考えた。このため、今回はうまくいかないことや必要なのに気付けなかったこと、自分の実力不足だったと感じる点を確認することができた。このようなことはボーイスカウトに入っていなければ体験できなかっただろう。自らの活動範囲が日本国内から海外に広がったと感じた。改めて、今回の派遣に携わってくださった皆様に感謝し、今後もアロハ連盟との流が深まるよう期待します。

杉並9団RS　　香川 晶

今回の派遣に参加したことで、ハワイに関する歴史やハワイと日本の関係について、以前より知ることができた。第二次世界大戦において、ハワイの人々が日本の真珠湾攻撃などをどのように受け止め、今を暮らしているのかを知る貴重な経験ができた。戦艦ミズーリ記念館の展示物を見ると、ハワイの被害状況や当時の社会について詳しく触れつつ、日本の被害や当時の状況についても説明してあった。日本の多くのこういった施設は、日本の状況ばかりを展示し、他国の被害状況などを載せることが少ない。

日本は多くの外国人旅行者を招いているが、どこか閉鎖的な面があり、他国に比べて文化や歴史について学ぶ機会が少ないように思える。ボーイスカウトとして、互いのことを知ることが国際的な架け橋となることを学ぶべきで、教え、広めるべきことであると学んだ。

今回のメンバーとは多くのことを語り、楽しい時間を共有することができた。今後も続けたいと思える関係性は、人生において貴重な物のひとつである。今後も彼らとあすなろ地区のメンバーとして、一人のボーイスカウトとして、一緒にこれからも過ごしたい。

ハワイのTroop49とTroop75のスカウトやスタッフも皆さんいい方々で、私たちを快く歓迎してくださった。ボーイスカウトという共通点一つで、国を越えた出会いやかかわりを持てることの素晴らしさを改めて実感できた。

反省点としては私自身の力量不足である。私は今回通訳という役割をもってこの派遣に参加した。以前にカナダで過ごした経験を生かすことができると思っており、自分の英語力を知るいい機会と思っていた。実際に英語を使う場面は多くはなかったが、自分の力不足を痛感した。細かい会話の流れや単語などわからないことも多く、聞き取ることができても、日本語にうまく翻訳できない場面もしばしばあった。

最終日近くになってから、バーノンさんたちと話す機会も増えて慣れ始めた矢先に帰国したため、実際に自分がどれほど役にたてたのかわからない。今回のことから自分自身の問題点も発見したため、このようなことがないよう、今後につなげていくことが次の課題であると思う。

杉並13団RS　　名和 舞雅

ハワイ派遣ではアメリカと日本の歴史、ハワイの独特な文化に直接触れることができ、遊びの観光ではきっと持ち帰れないであろう多くの知識を身につけることができた。またスカウトやその関係者との交流を通して、積極性やコミュニケーション能力、そして英語の大切さを身にしみて感じることができた。

平和学習ではアリゾナ記念館やミズーリ戦艦、パールハーバーなどを訪れたが、日本の教科書では絶対に学べない、アメリカの視点から記された戦争の背景や、細かい戦闘の様子などを知ることができた。

自国にとどまっているだけでは、どうしても自国の価値観で選ばれた情報しか得られないことが多く、知るべき事実に気づくためには、より広い様々な視点から学ぶことの大切さを感じた。

またミズーリ戦艦でガイドさんの話の中で、戦争中にミズーリ戦艦からの攻撃を避けて船に突っ込んできた神風特攻部隊がいて、その際敵であるはずの日本兵士の遺体を「優秀な操縦技能と大きな勇気を認める」として船上で葬儀をあげたという話があった。私はこの話を受け、ただ国のために人を殺しあう醜い戦争の中でも、人の美しい心は存在していたことを知ることができ、またその中でも殺し合いをしなくてはいけない虚しさをも感じた。

現在ではアリゾナ記念館の展示の内容も変わってきていて、日本を敵視した展示から、平和であることの難しさや和解の大切さ、客観的な戦争への経緯といった展示になってきているという。自分たちが生きている世界は今、戦争を憎み悲しむだけの暗い時代から、二度と醜い戦争を起こさないように努力をしていこうと、前向きに考える明るい時代に変化していることを身にしみて感じ、不安定なアジア情勢の中、私たちはどうするべきなのか、しっかり向き合っていこうと思った。

ハワイではアロハ連盟の方々、Troop75、Troop49の現地スカウトとの交流も行った。私は英語ができる方ではなく、現地のスカウトとの接しかたに悩んでいたが、現地のスカウトが気さくに、ゆっくりと話しかけてくれたおかげで、楽に打ち解けることが出来た。中には勉強している日本語で話しかけてくれる人もいて、心が温かくなった。

それと同時に、英語を使えればもっと仲良くなれたのかもしれないというもどかしさが残ったため、今後の国際交流のため勉学に励んでいこうと心に決めた。

中野8団RS　本 紗希

私は、ほかのメンバーからハワイ派遣に誘われ、親に勧められたからという受動的な理由で今回参加しました。

そのため、実際ハワイや派遣の内容などしっかり把握できておらず、メインで考えてくれたメンバーに任せっきりの形になっていました。そのせいもあり、出発直前まで気持ち的にもノリ気ではなく、「申し込みしたから行かなきゃ…」というネガティブな気持ちで参加しました。

しかし、実際にハワイに到着して、メンバーと一緒に生活して行く中で、ハワイと日本の歴史なども学ぶことができ、充実した生活を送れました。

歴史に関しては日本からの目線ではなく、ハワイからの目線で考えると一つの出来事が全然違って見えたりと、日本では感じることのできないことを感じ、学ぶことができました。

私はこのハワイ派遣で、計画された以外の部分で、多くのことを考えさせられました。

それは、さまざまな意見を聞くことができたからです。一度にたくさんの団のスカウトが集まり、多くの自由時間がある中で、スカウト活動について各々の考えを話すことができたからです。

また、貴重な経験ができたのは、今回の派遣にかかわった多くの人のおかげです。本当にありがとうございました。

中野11団RS　東條 雅臣

今回私は、ローバースカウトとして初めての活動で、初対面の先輩スカウト達とハワイ派遣に望みました。

7泊9日の長期の滞在予定は、当時高校卒業を迎えようとしていた私にはとても長く感じ、既に出来上がっている先輩達の輪に上手く馴染めるのかとても不安でした。しかしその予想に反し、先輩達は気さくに話しかけてくれ、ハワイに着くまでにその緊張は解けていました。

二日目に訪れたパールハーバーは、とても考えさせられる地でした。日本にも原爆ドームや沖縄の壕など、負の遺産として今もなお後世に戦争の悲惨さを語り継ごうと、資料を残している物がいくつかありますが、パールハーバーも同じように資料館がありました。

しかし相違点として、パールハーバーの資料館では、自国の罪を認めたり、逆に敵国の素晴らしかった点を称賛したりする展示物が多く飾られており、普段から感情抜きで歴史を学びたいと思っていた私にとっては、素直に心に届くアプローチでした。

戦艦ミズーリ号には当時の日本兵の戦闘機が墜落した痕も残っており、「80年前は敵船だったこの船に今乗って話を聞いている私たちがあるということは、80年後にこの世界がどうなっているのかは誰にも想像できないし、平和にさせるも殺すも若い私たち次第なのだ…」と改めて感じました。

たまにはハワイ派遣らしくビーチにも行きました。シュノーケリングをした際に、海水温がそこまで高くなかったせいか、次々に上がっていく先輩方を横目に根気よく水中観察をしていたら、運良くウミガメに遭遇できたので嬉しかったです。その他にも、沖の方に出なくともたくさんの魚を見ることができました。

今回あすなろ地区ローバーとしてハワイ派遣に参加し、これから始まるローバースカウト活動にたくさんの期待と希望を持ちました。

これからは後輩達に同じ思いを抱かせられるよう、スカウト活動に精進していきたいと思います。

杉並11団RS　西村 福太

僕はただハワイに旅行に行き、観光がしたいな程度の軽い気持ちで、誘われるがままに派遣へ参加した。

しかし結果として1年を通しての大掛かりな計画、実施、報告という、ボーイスカウト活動の集大成のような、ローバー年代らしいプロジェクトに携わることになった。その中で新しいあすなろ地区の同年代の仲間と知り合い、仲を深めていくこと、プロジェクトをより良いものにしていくために協力すること、ハワイで楽しく笑いながら活動したことを経験した。

派遣を終え、当初の自分の目的であったハワイに旅行へ行くこと事は達成したが、それ以上に忘れることの出来ない思い出の数々、かけがえのない仲間など目に見えなく、そして今後も僕にとってとても大切なものを手にできた。

このプロジェクトを機に、あすなろ地区に所属するローバー年代がより積極的に活動に参加し、より盛り上がり、様々な活動を行っていく団体になると思う。また、僕自身も周りのスカウトを誘い、積極的に地区ローバーの活動に参加して、より良い団体になるように手伝いたいと思う。

杉並13団RS　田中 大介

今回、初めて海外に行くということもあって、出発まで期待と共に、不安な気持ちがかなりあった。一番の不安は言語に関することだった。ハワイは他の国に比べて日本語が通じる方だ、という話を聞いたことはあったが、そもそも海外渡航の経験がないため、どのくらいなのかが想像もつかなかった。自分は英語が得意ではなく、言葉が通じないことに対する心配がとても大きかった。しかし、実際に行ってみて、コミュニケーションを取るときに言語能力はあまり重要でないことを改めて感じた。相手が伝えたいことを理解しようとする姿勢があれば、多少の言語の壁は超えることができると思った。

今回の派遣ではハワイの文化や歴史、日本とハワイの関係性についても触れることができた。第二次世界大戦においての真珠湾攻撃に関する記録や歴史的背景、ハワイがどのように文化を形成してきたのかなど、様々なことを知ることができた。日本では第二次世界大戦を初めとした、日本が起こしてきた戦争に関する展示物は多く目にするが、戦艦ミズーリ記念館にあるような、真珠湾攻撃に焦点を当てて、当時の社会や被害状況に詳しく触れるような展示物は見たことがなかった。ビショップミュージアムではハワイの歴史や文化に関する展示物を多く見ることができ、ハワイがどのような役割をもった島なのかということを知ることができ、とても新鮮だった。

現地のスカウトとの交流もとても楽しかった。海外のスカウトとの交流はジャンボリーなどで経験があったが、活動や交流する時間など、ジャンボリーでの交流とはまた違ったものがあったと感じた。特にハイキングなどで長い時間の交流をしたことがなかったため、現地のスカウトと話す機会が多く、親交を深められたのではないかと思う。

反省点としては、積極的に交流が出来なかった点で、バーノンさんや現地のスカウトと行動する時も、基本的に相

手が話しかけてきたことに相槌を打ったり、受け答えをするだけで、自分から話しかけるような姿勢を取らなかった。次にもし海外派遣をするような機会があれば、この点は直すべきだと思った。

今回の海外派遣は自分にとってとても良い経験になったと思う。この派遣で得たことや反省点などを次に生かせるようにしたいと思う。

杉並6団RS　小山 朋哉

私は今回のハワイ派遣に参加するにあたり幾つかの不安な要素がありました。まず一つ目に、私自身がいままで海外派遣隊に参加したことがなかったということです。海外派遣の際、現地のスカウトとどのように交流すればいいのか、見当がつきませんでした。しかし、実際に現地に着いたら、そのような不安は杞憂だったと知りました。バーノンさんや多くの現地スカウトとリーダーは非常に暖かく迎え入れてくださり、派遣をとても楽しむことができました。

文化に触れ、現地の人に触れ、食文化に触れ、歴史に触れ、海外旅行では考えられない濃密な交流をすることができました。さらに普通の旅行ではできないアロハ連盟の訪問ができ、とても貴重な経験になりました。

次に、構成メンバーの中で年齢を考えると、全体をまとめ、引っ張っていかなくてはいけない位置にいると考えられることです。派遣隊のメンバー同士でも、企画が上がった時点で話したこともないスカウトもいました。

「このような中で海外に行けるだろうか…」と心配していましたが、不安は出国前に解決できました。出国前、派遣隊の構成メンバーと会議を開くなど、密に連絡を取り、関係を深めることができ、そのような環境の中で、ハワイ派遣の士気を高めていくことができました。

しかしながら、現地では自分たちの準備不足やコミュニケーション不足から、各日の予定が想定通りいかなそうな時もありました。そのような状況でもメンバーそれぞれが協力し、問題解決に取り組み、すべてのスケジュールをこなすことができ、さらに楽しむことができました。

今回のプロジェクトでは、ボーイスカウトを通して気づかぬうちに世界に仲間ができたこと、そして一人では無理でも、協力すれば多くのことができることを学びました。これからもあすなろ地区のローバーが海外派遣等で多くの気付きを得られるよう、そしてアロハ連盟との交流と良好な関係が続くよう、一層の努力をしようと思いました。

派遣隊長 杉並3団RS隊長　　本間幹人

ハワイのみなさんと、ひとつになっていくなかで、日本のメンバーの心もひとつになっていく、尊い時を持つことができましたことに感謝申し上げます。

「地域と地域の交流」を願われる、バーノン佐藤さんに歓んでいただき、料理やハイキングで交流したスカウトたちが喜び、準備から奉仕くださったお母さん、お父さん、指導者の皆さんに喜んでもらい、何より素晴らしい成果であると好評をいただきました。

国際交流の原点となる礎が、ここに築かれたと思います。

ハワイの意向が準備段階から全てを教えて指導してほしいというものであり、日本の方針では、全てを自分たちで準備することというもので、スタートは正反対のものでした。

アメリカの住宅地では、プールに入るのは昼間であること、消灯時間も早い時間であることも、現地で直面してから知ることが多い中で、良い方々の心に支えられて過ごす時間をハワイでもつことができたのではないかと思います。

交通渋滞予測まで、下見の状況を踏まえて入念に全員の会議で煮詰めて行く方法もありますが、ハワイのひとりひとりの心に触れるという流れでは、今回が一番よい結果だと思います。

これからのローバー活動、後輩への伝承、地域への奉仕、ハワイのみなさんへの貢献など、歓びの輪が広がっていく源となる感謝の心が、あたたかい南の島で育まれた日々でした。

参加されたみなさん、準備から縁の下で支えてくださったみなさんのおかげで、未来に道をつなげることができ、まことにありがとうございました。